

# 第3回豊栄春マラソン大会【新型コロナウイルス感染防止策】

- ① 参加者・ボランティアスタッフには、健康チェックシートの記入を求める。(未記入、感染疑いがある場合は参加をご遠慮頂く)⇒原則当日の朝、来場前に自宅で検温をしてもらう。  
健康チェックシートの内容は、2ページに記載する。
- ② 伴走以外のスタッフは、マスクを着用する。
- ③ 受付前に、非接触体温計で参加者(ボランティアスタッフを含む)の検温を行い、37.5°C以上の発熱が見られる方には参加をご遠慮頂く。検温スタッフはフェイスシールドを着用する。
- ④ 受付前に参加者には手指消毒をお願いする。
- ⑤ 受付・ゼッケン引き渡し場所には、透明シートもしくはアクリル板などを設ける。
- ⑥ トイレなどの洗面所付近には手指消毒用消毒液を設置する。
- ⑦ 受付スタッフは、使い捨てポリエチレン手袋又は、ゴム手袋を着用して、参加者1人ごとに消毒を行う。又、フェイスシールドを着用する。
- ⑧ 受付場所には消石灰を用いて立ち位置を示し、参加者同士距離を取らせる。原則として1㍍以上の間隔を取る。
- ⑨ 競技開始までは、参加者も必ずマスクを着用してもらう⇒持参していない人には受付でマスクを配布
- ⑩ 開会式はグラウンドにて行い、参加者同士は1㍍～2㍍の間隔を取らせる。消石灰などで位置を示す。
- ⑪ スタートの際も、間隔を1㍍～2㍍取らせる⇒申込順で並ばせる(早いほうが前)
- ⑫ 競技中はマスクの着用をしないが、「なるべく距離を取りながら走るよう」開会式でお願いする。(できる範囲で)又、受付でマウスシールドを配布し、全員着用して走ってもらう。
- ⑬ 給水スタッフは、フェイスシールド・使い捨てポリエチレン手袋などを着用し、こまめに手指消毒を行う。
- ⑭ 飲み終えた給水のコップは、所定のゴミ箱へ捨てるようにお願いする。(路上へのポイ捨ては厳禁)⇒痰・つばなどもなるべくはき出さないよう呼びかけを行う。給水の水でうがいしたものもあるべくさない(うがいをしない)。
- ⑮ けが人などに対応する救護係は、使い捨てゴム手袋及びフェイスシールドを着用する。
- ⑯ 競技終了後(ゴール後)は、参加者同士密集させないように距離を取らせる。(なるべく早めにマスクの着用をしてもらう)
- ⑰ 参加者のマスクは各自で処分してもらうようにする。
- ⑱ 表彰式はグラウンドで行い、全員マスクを着用してもらう。
- ⑲ 開会式同様に、参加者同士の距離を1㍍～2㍍取らせる。
- ⑳ 上位3名の表彰の際も、主催者は1人ごと手指消毒をしてから賞状・トロフィー・特別賞品を授与する。
- ㉑ 閉会式終了後の、完走賞・景品の授与は受付にて行い、申込順に間隔を1㍍～2㍍開けてもらう。
- ㉒ ㉑の際にゼッケンも回収する。
- ㉓ ㉑㉒を行うスタッフは、受付と同様にポリエチレン手袋及びフェイスシールドを着用し、1人ごと手指消毒を行う。⇒参加者にも手指消毒をお願いする。
- ㉔ 参加後2週間以内に、新型コロナウイルスに感染した場合(陽性と診断された場合)、主催者に連絡してもらう。(ボランティアスタッフも含め)
- ㉕ 参加者の居住地は「長野県新型コロナウイルス感染症・感染警戒レベル」に定める「長野圏域」内の市町村(長野市・須坂市・千曲市・坂城町・小布施町・高山村・信濃町・飯綱町・小川村)に限定し、保健所などから濃厚接触者に認定されている場合は参加できることとする。
- ㉖ 参加ランナーの上限を原則150名までとする。
- ㉗ 2週間後に健康状態(ボランティアを含めた)の確認を行う。(ネットなどを通して)

## ■健康チェックシートの内容

この内容に1つでも☑がつかない項目がある人は参加できないこととする。

- 平熱を超える発熱がない(37.5℃以上は参加できません)
- 咳、のどの痛みなどの症状がない
- だるさ(倦怠感)、息苦しさ(呼吸困難)などがない
- 嗅覚や味覚の異常がない
- 体が重く感じる、疲れやすいなどの症状がない
- 新型コロナウイルス感染症の陽性者との濃厚接触がない
- 同居家族や身近な知人などに感染者又は疑いがある人がいない
- 過去14日(2週間)以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域などへの渡航または該当在住者との濃厚接触がない

※チェックの他に、当日朝の自宅での体温を記入する欄を設ける。

健康チェックシートの記入は、原則として自宅で行ってもらう。**健康チェックシートはランナーには郵送・ボランティアスタッフには説明会の際に配布する**(説明会欠席者には郵送)。受付前の係員に提出し、係員がすべての項目にチェックが入っていることを確認してから、検温⇒受付⇒ゼッケン受け取りという流れになる。尚、記入忘れの方のために記入場所を設置し、記入場所には係員を1人設け、1人が書き終わるごとに机を消毒し、記入用の鉛筆は使い捨てを用いて、参加者同士使い回さないようにする。記入場所の前にも消石灰などで立ち位置を示し、参加者同士の距離が1㍍～2㍍以上離れるようにする。